



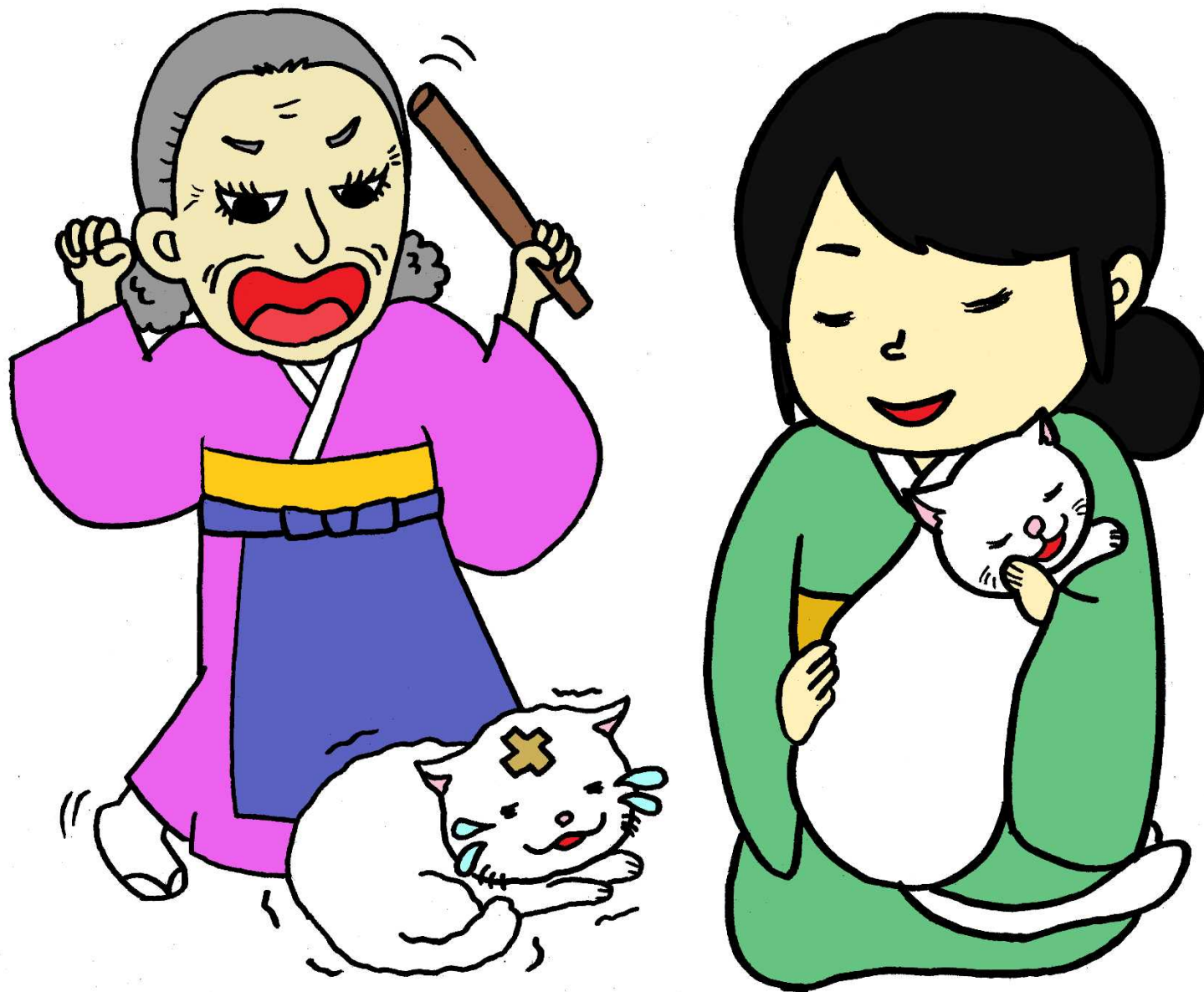
つがるの昔っこ 31 (昔話)

猫屋敷① (津軽弁)

国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト：やざわ ゆな
カラーリング：みやかわ みなみ

昔、ある町の大きい宿屋さ、お梅てす女中コいであたど。お梅あ猫コ好きでせ、
タマてす猫コば飼ってめぐがってあつたど。

ところが、そこの宿の女将のお杉は大の猫嫌いで、タマそごさいただげで、ぶ
叩いだり、物投げだりすんだど。



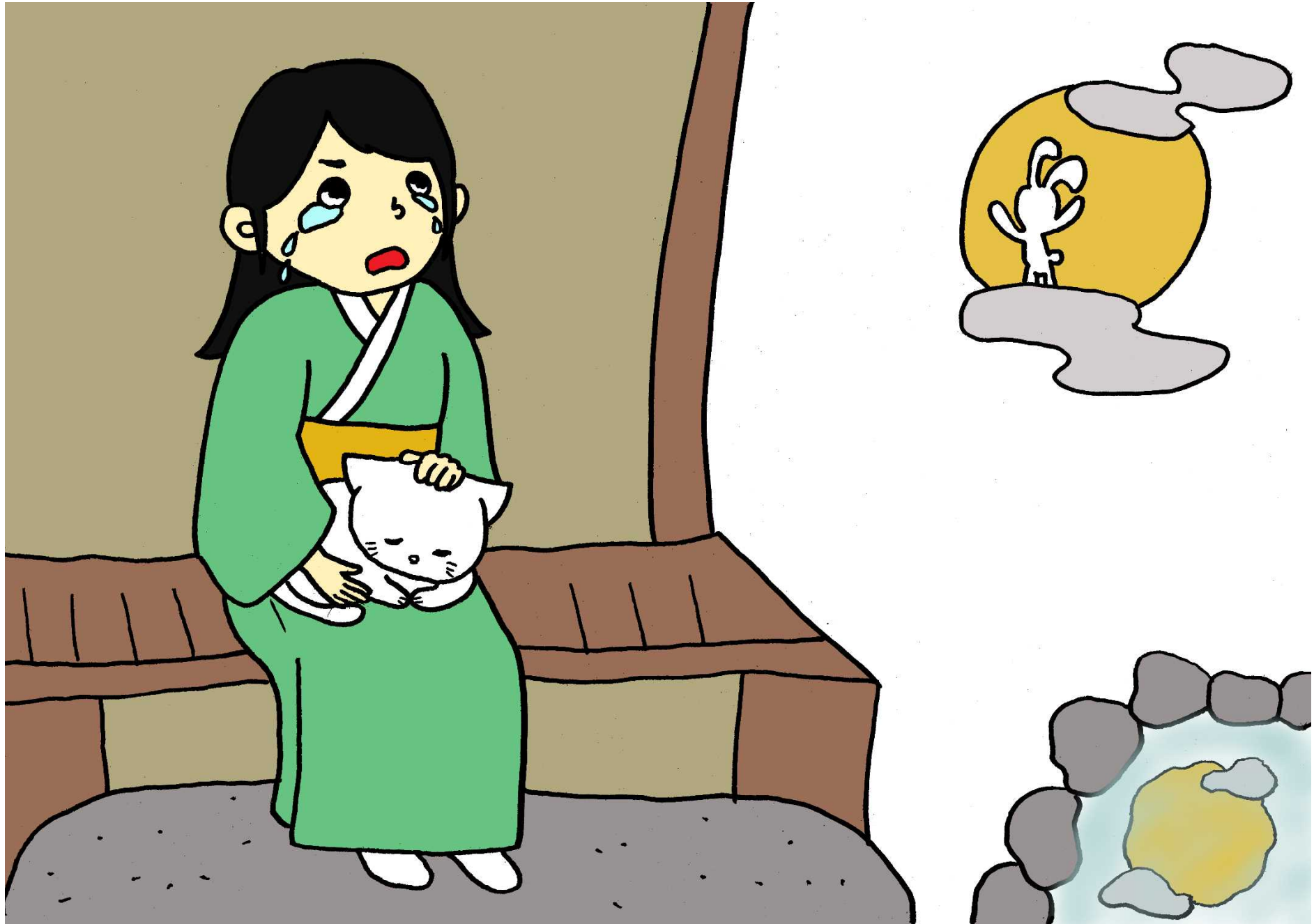
そしてむったどお梅さ『こら、梅、お前（め）なして猫だの飼ってるんだば。ぐーぐどごだりさ捨てでまれ！』て怒ってるんだど。

したばて、なんぼ女将のお杉さバツ張られでも、お梅はタマば捨てられなくてあたど。

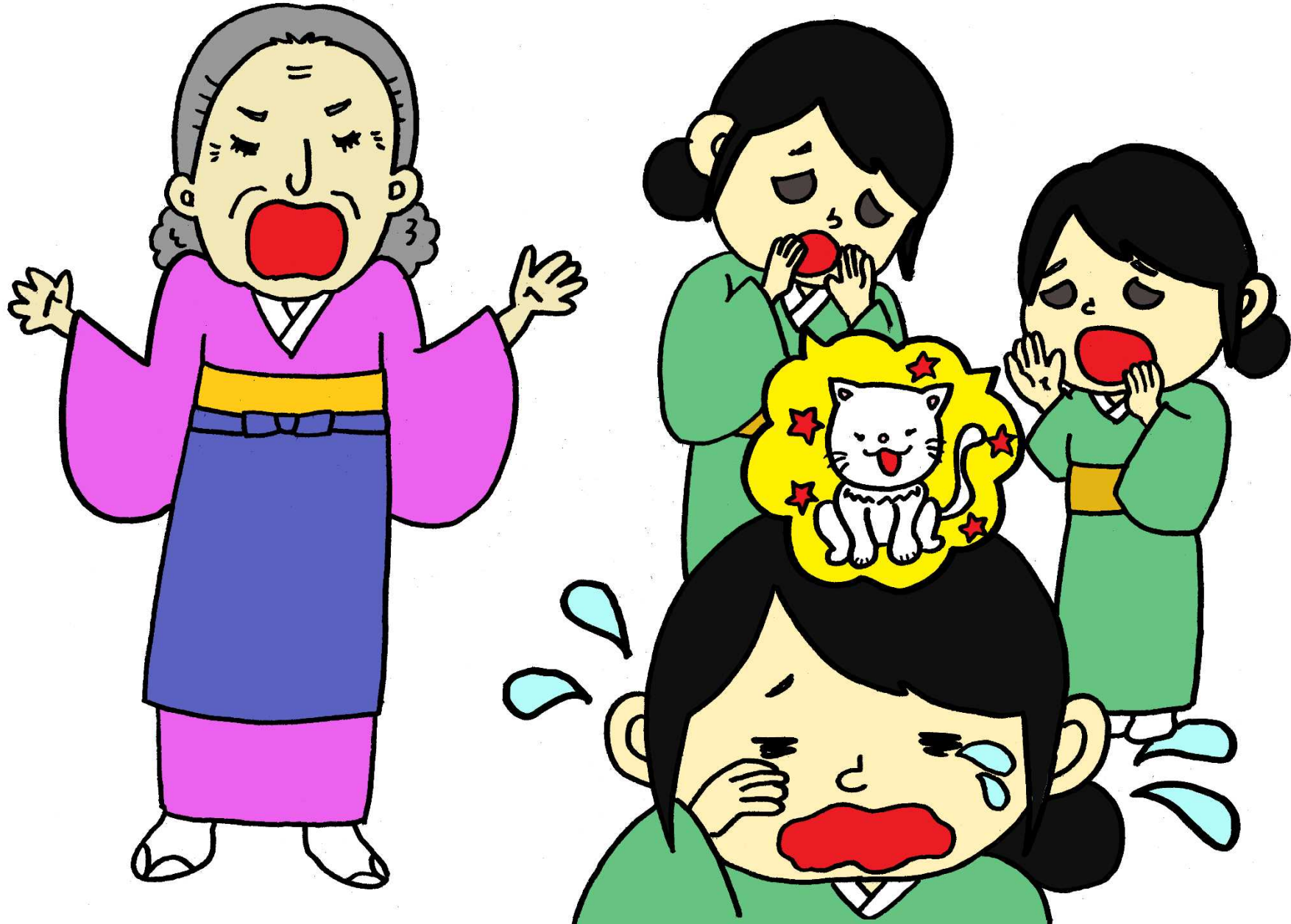
お杉『猫ば捨てらえねんだば、お前さも出で行ってもらうはでな。わがったが！』



お梅、困って来て、晩になれば、かぐちでタマごと抱いで、お月様見上げで泣いでたど。



したきや、どしたんだがさ、タマ急にいねぐなてまたど。
『やあれ、やれ、これでさっぱどしたじゃ』
お杉あ喜んだばて、それがら毎日、お梅はしげねくてまね。タマの事ばり考えで、今頃どご
がで腹へらしてねべが、生きでらべが、死んでらべが、ど心配してらんだど。



ある日、旅のお坊さんが、この宿さ泊またど。
お茶持って出だお梅ば見て『お前（め）顔色悪いな、どしたんだば？』て聞いたど。
そごでお梅、可愛（めご）がってらタマの事話したど。
『んだがんだが、あの猫ばめごがってらのはお前（め）であったが。心配すな、あの猫だば今頃は、あれ、あの山の奥さ居で、無事に暮らしてるはんで、な』て教えてなぐさめでけだど。



『え！本当ですか！』お梅はそれば聞いだきやどうしてもタマさ会いたくなつたど。
そごで一日だけ休みもらって山さ出がげだ。
奥さ奥さと入って行つたけど、タマあどごさいるがさっぱりわがらね。
あっちこっち探してるうちに、とうとう日あ暮れでしまつたど。
暗（くれ）ぐなつた山の中の道（けんど）だもの、お梅怖（おか）なくて怖（おか）なくて、
もう一歩も進めねぐなつてまた。

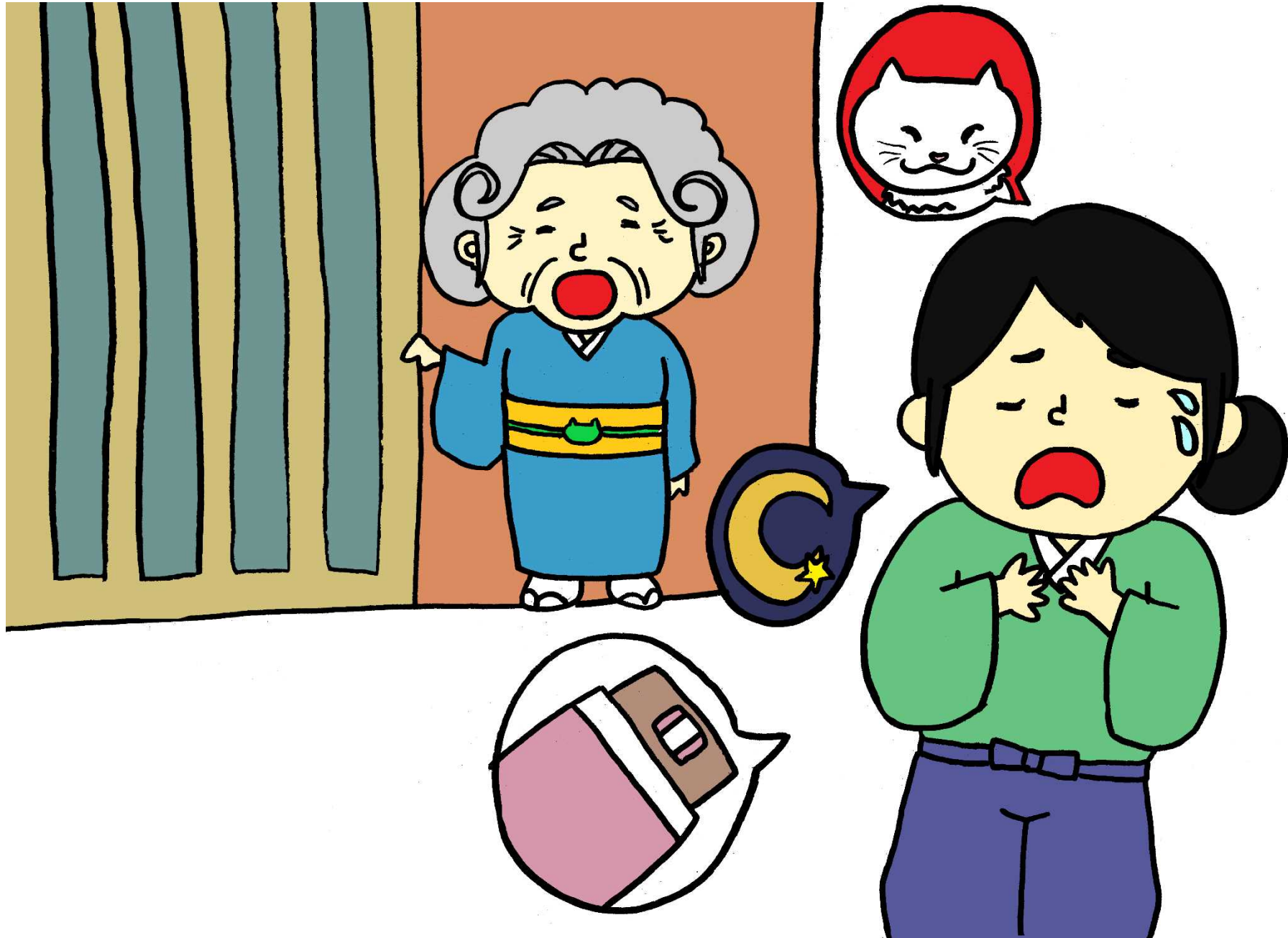


したきや、森の奥の方さ、チカラッと明かりこ見えだんだど。
『あ、家コある！あすこさ泊めでもらうべ』ど思って、夢中で走（は）けで行ってみだ。した
きや、そこは立派なお屋敷であたど。



お梅、不思議に思ったども、思い切ってその屋敷の門ばトントントンて叩いだど。
しんばらぐしたきや一人の婆様（ばさま）出で来たど。

お梅、ほっとして『私は、猫ば探して来たんですばて、日あ暮れでまで困ってらんです。
どうか、今晚一晩泊めでけへ』てしたど。



婆様『なんたけ？猫ば探しに来たってが？』て言（し）たどごで
お梅『そんだのし。。。』て言（し）て、
女将さんとのいきさつだの、いろいろ話して
『私、あのタマいねば淋しくてまいねのし』て、目（まなぐ）さ涙こいっぺためだ。

